

国際理解教育/開発教育 学習指導 (活動) 案

【実践者】

授業者氏名	石動 徳子 (1～6年児童支援)	学校名	神戸市立義務教育学校 港島学園前期課程
教科(科目)・領域	総合的な学習の時間	対象学年(人数)	6年 1・2・3組(98名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2020年10月～12月(11時間)		

【実施概要】

1. 単元名(活動名)： 港島ワールドプロジェクト ～地域に住む世界のひとと～						
2. 実践する教科・領域： 総合的な学習の時間 10人や国の不平等をなくそう 11住み続けられるまちづくりを 17パートナーシップで目標を達成しよう		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		B グローバル社会	相互依存	情報化		
		C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
		D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 地域の特性や在留外国人支援団体の活動を理解し、自分たちができる「協力」や「共生」を考え、行動へとつなげる。						
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能		地域の特性や在留外国人支援団体の活動を知り、自分たちの地域には様々な国の方が様々な理由で住んでいることを理解している。			
	②思考力、判断力、表現力等		自分たちができる海外出身の方との「協力」や「共生」の仕方を考える。			
	③学びに向かう力		地域の特性やゲストティーチャーの話をもとに、友達と話し合いながら、自分たちができることに挑戦している。			
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童／生徒観、教材観、指導観)		【単元設定の理由あるいは単元の意義】 近年、在留外国人の数は増加傾向にある。本校の置かれている地域においても、留学・就労・国際結婚などの理由で海外出身の方が比較的多く住んでいる。本校にも、全体の11～12%が外国にルーツをもつ児童生徒が在籍しており、校内には国際教室が設置され、日本語学習や母文化保持のための学習活動が行われている。幼い頃から共に過ごしてきた児童も多く、一見、児童同士が和やかに学校生活を送っているようにも見受けられる。だが、校内で孤立しがちな外国籍児童もあり、外国にルーツをもつ児童に対してステレオタイプで見てしまう傾向も否定できない。地域の中でも、海外出身の方との関わりがより深まればいいのではと感じる面もある。そこで、児童や先生方と共に、より関わりのある「協力」「共生」を目指していきたいと思った。				
		【児童／生徒観】 本校6年生にも外国にルーツをもつ児童が複数おり、日常生活の中で様々な国や文化を知る機会が比較的多い。全体として外国にルーツをもつ児童とも上手く「共生」しているようにも見える。だが、やはり異国で生活した経験のない児童にとって彼らの思いに気づくことは容易ではなく、自分ができることを行動しようとする児童も少ない。また、地域には海外出身の方が自分たちの				

思っている以上に多く、どんな仕事や生活をされているのかまでは理解しているとは言い難い。

6年生は、これまでフェアトレードや世界の食文化、人種差別、世界に貢献する人々についてなど、国際理解や多文化共生という視点をもった学習をしてきている。これまでの学習も活かし、6年生という節目の学年で、海外出身の方に対して自分たちができることを行動につなげてほしいと思う。また、行動する中で、その国の考え方や習慣に触れて、自分たちの視野も広げてほしいと願っている。

【教材観】

この教材は、地域や学校の特性を理解し、海外出身の方が日本での生活の中でどんなことに困ったのか、私たち日本人にどんなことを理解してほしいかなどを知った上で、自分たちが身近なところから行動していく学習である。これまでの国際理解・多文化共生に関する学習や、1学期に国語で学習した「私たちにできること」も活かして、自分事として行動しやすいのではないかと考えている。とはいえ、中には「日本人である自分とは関係がない。」と感じる児童もいるかもしれない。そこで、自分たちの海外出身の方との関わりを振り返る、意外な接点を知る（自分たちの知らないところでの繋がり）、海外出身の方や支援をされている方の思いを知る機会をもつことを手立てとし、児童が海外出身の方の困りごとをより自分事として感じ、行動できるようにしたい。また、多くの児童が本校中学部に進級する中で、今回の学習が中学部での生活にも継続し得るものであると共に、他学年にも外国にルーツをもつ児童が多くいる中で全学年に普及し得るものであると考えている。

【指導観】

はじめに、日本での在留外国人の状況や地域の特性を知る機会をもつ。これまでの海外出身の方との関わりを振り返り、具体的資料で人数・国・渡日理由などを理解する。この中で、「日本で“外国人”になると、どんなことに困るか」を予想することで、海外出身の方に思いを寄せると共に、後で予想と比較できるようにしたい。また、地域の在留外国人支援団体の活動から、身近なところで様々な支援がされていることに気づかせたい。

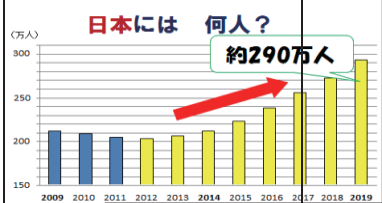
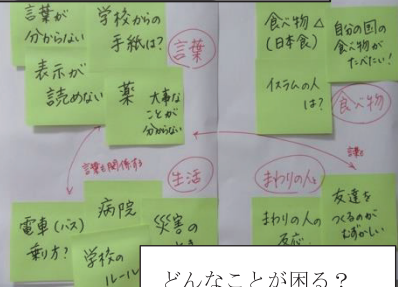
次に、より具体的に知りたいことをゲストティーチャーの方々に聴く。支援団体の方、地域に住む海外出身の方、外国籍児童生徒のサポーターの方と、複数の立場の方々に話を聴くことができればと思う。その際、どんな思いで支援されているかや私たちに理解してほしいことは何かなど、事前に予想をした上で視点をもって聴くようにしたい。

そして、地域や学校の特性、ゲストティーチャーの話を通して考えた、自分たちができることを話し合うようにする。まずは一斉に出していき、その中から自分がやってみたいことを選んでいく。イメージが難しい児童については、友達の意見やこれまでの学習記録、他地域での実践例をもとに、自分が特に印象に残ったことから考えさせたい。実際の活動については、おそらく個人では難しい面もあるかと予想されるので、内容が似た児童とグループになり、計画を立てていく。一度まずやってみて、難しかったことや改善点などを話し合い、（また必要であれば、本校の外国籍児童や地域に住む海外出身の方にも意見を聞き、）ブラッシュアップしていく時間を取りたい。最後に自分たちの活動を振り返り、これらは港島に住む自分たちだからできることであり、SDGsにもつながることに気づかせたい。

地域の特性や海外出身の方の困りごとをもとに自分たちができることをまず行動し、その中で知り得た多様な考え方や習慣から自分たちの視野を広げ、「協力」「共生」の大切さに気づかせたいと考えている。

7. 単元計画（全 11 時間）			
時	ねらい	学習活動	資料など
1 本時	地域の特性を理解し、海外出身の方の困りごとについて考える。	- 自分と海外出身の方とのこれまでの関わりや、多様な国の方がいることで自分たちにもプラスになっていることを思い出し、話し合う。 - クイズ形式で日本や神戸市（中央区）の在留外国人の数・国・渡日理由を予想し、資料から読み取る。 「日本で“外国人”になる」と、どんなことに困るかを付箋に書いて貼る。グループおよびクラス全体で共有する。	- 法務省統計 - 関連施設の写真（理研、JICA 関西など） - 本「同級生は外国人?!」 - SDGs ロゴ 10,11,17（毎時提示）
2	地域にある施設や団体がどのような支援をしているかを理解する。	- グループで市内の関連施設や団体の写真を見て、気づいたことを話し合い、場所はどこかを予想する。クラス全体で共有する。 - 場所が分かった上で、なぜこのような活動をしているのかをグループで話し合う。クラス全体で共有する。 - 次時でゲストティーチャーに聴きたいことを、ワークシートに記入する。	在留外国人支援団体資料、写真（例：海外移住センター、オリニマダン、神戸国際コミュニティセンター、区役所多言語対応窓口）
3 4 5	海外出身の方や支援をされている方の思いを理解する。	- どんな思いで支援されているのか、私たちに理解してほしいことは何かなどを、事前に予想する。 - ゲストティーチャーの話（支援団体、地域に住む海外出身の方、外国籍児童生徒のサポーター）を聴く。 - 印象に残ったことやこうすればよいのではないかと思うことを、ワークシートに記入する。	ワークシート
6	地域の特性やゲストティーチャーの話をもとに、自分たちができる「協力」「共生」を考える。	1 時間目での「日本で“外国人”になると、どんなことに困るか」に対する予想と比べて、ゲストティーチャーの話を聴いて変わったことを話し合う。 - ゲストティーチャーの話で、自分が特に印象に残ったことを 1, 2 つ書く。 - クラス全体で、各自の印象に残ったことを内容に応じてグルーピングする。 - グループで、自分たちができることは何かを話し合う。ダイヤモンドランキングで、まず自分たちが実践することを決める。	補助資料（HIA 防災資料、ピクトグラム、ハラルフード表示、指さし会話帳、JICA 国際理解資料集、本「同級生は外国人?!」など）
7 8	「港島ワールドプロジェクト」で自分たちができる「協力」「共生」を実践する。	- グループで、前時に決めた実践に向けて準備をする。 - ペアグループをつくり、実践計画を発表し合う。 （グループで随時、）実践する。	※随時、グループでの計画に応じて資料を用意。

9 10	「港島ワールドプロジェクト」の実践を互いに見直し、さらに高める。	・ペアグループで、自分たちの実践を発表し合う。互いの活動について意見を出し合う。 ※必要であれば、在留外国人の方のアドバイスを聴く。(本校の外国籍児童や海外出身の方) ・新たな実践計画をつくり、準備する。 ・(グループで随時、) 実践する。	※随時、グループでの計画に応じて資料を用意。
11	自分たちの実践がSDGsにつながることを理解し、世界の人とどう共生していきたいかを考える。	・グループで、実践してみて感じたことや新たに生まれた考えなどを話し合う。クラス全体で共有する。 ・SDGsの意義を聞き、自分たちの活動とSDGsとの関連を考える。 ・クラス全体で、今後どのように世界の人と共生していきたいかを話し合う。 ※「日本人と外国人」としてではなく、人と人とのつながりを大切にするという視点で帰着させたい。	・SDGs ロゴ (全種)

8. 本時の展開（概略）			
本時のねらい：地域の特性を理解し、海外出身の方の困りごとについて考える。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問 および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	1,「今までの海外出身の方との関わりを思い出してみましょう。」 ・同じマンションに住むアフリカ系の人を知ってる。 ・最近よくスーパーやコンビニで外国の人を見る。 ・港島にはワールドルームがある。いろんな国のことが分かる。	・以前の道徳（人種差別について）の学習で自分との関わりを書いたワークシートも併せて紹介し、他にどんな場所で海外出身の方と関わりがあったかを考えさせる。	・本校のワールドルーム（国際教室）内の写真 
日本で“外国人”になると、どんなことに困るのか考えよう。			
展開 (30~35分)	2,「何人の方がどんな理由で、日本や神戸に住んでいるのでしょうか。」 ・兵庫県は、全国で7番目に多く住んでいる。 ・神戸市では、自分たちの中央区が一番多い。 ・やっぱり中国出身の人が多い。 ・留学や仕事など、いろいろな理由があるのだな。 3,「日本で“外国人”になると、どんなことに困るか考えてみましょう。」 ・言葉が分からない。書いていることが読めない。大事な情報も分からない。 ・自分の国の生活との違いで困る。食べ物が合わない。 ・友達がいなくて寂しい。 ・周りの人からじろじろ見られる。 ・(海外からの) 港島の友達は、日本に来たときどんな気持ちだったのだろう。	・在留外国人数や国・理由について※クイズ形式（パワーポイント）で予想させた上で、日本や兵庫県および神戸市の統計資料を読み取るようにする。（※本来であれば「部屋の四隅」など移動を伴ったワークショップ形式で行いたいが、今年度については挙手などその場で行う。） ・渡日理由については、身近にある関連施設も併せて紹介することで、児童が自分の生活に近づけて感じられるようにする。 ・まず個人で考えを付箋に書き、グループ内で紹介しながら貼っていくようにする。その際、似た内容は近くに貼り、後でのグルーピング（「言葉」「生活」など）へとつなげる。 ・話し合い後に全体で共有する。その際、話し合いで出てこなかった困りごとを紹介したり、外国にルーツをもつ児童の話も聞いたりとすることで、個々の考えを広げられるようにする。	・法務省統計 ・関連施設の写真（理研、JICA 関西など）    
まとめ (5分)	4,「今日の学習で、気づいたことや気になったことを書きましょう。」	・自分たちの予想や疑問をもとに、今後海外出身の方や支援団体の方の話を聴いて、何ができるか考えていくことを提示する。	・本「同級生は外国人?!」 ・ワークシート（SDG s ロゴ付）

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

【知識及び技能】自分たちの地域には、様々な国の方が様々な理由で住んでいることを理解している。

（ワークシート、発言）

【思考力、判断力、表現力等】日本で“外国人”になるとどんなことに困るのかを、複数の場面について

考えている。（ワークシート、発言）

10. 学習方法および外部との連携

3 組のゲストティーチャーの話を聴く予定である。在留外国人支援団体の方、地域に住む海外出身の方、外国籍児童生徒のサポーターの方を予定している。地域や児童に身近である方々からそれぞれの立場で話を聴くことで、これまで接してきた方がどんな思いで仕事や生活をされていたかに気がつくであろう。何より、自分たちがしようとしている「協力」「共生」が、先入観や一人よがりのものではなく、相手のことを考えた上であるようにしたい。そのために、自分たちができることを考える前に、ゲストティーチャーの方の話を聴く時間をとろうと考えている。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・学年の先生との連携
- ・他学年への発表
- ・校内での周知や授業実践の報告、記録を残して来年度以降に継続
- ・神戸市教育実践研修での経過報告、授業参観案内、報告文書作成

【自己評価】

12. 苦労した点

- ・まず、この学習が逆に外国籍児童や保護者を傷つけたり、他の児童と線引きをしたりすることにつながるかを危惧した。身近な存在であるからこそ、特に配慮を要するものと思った。そのため、学習に入る前に、外国にルーツをもつ児童にねらいなどを事前に説明し、不安などがないか確認した。また、地域に住む海外出身の方からのお話は、その方の名前を出さずに授業者が代読する形で進めた。
- ・コロナ対応や学校行事の延期などの関係で、この学習も単元途中で中断し、定期的に時間を取ることも難しい面があった。単元の流れをつくるのが難しかった。特に第3～6時のあたりが中だるみになりがちだった。そのため、本来は単元の最後に SDG s との関連を考える予定だったが、変更して、これまでの学習をもとに自分たちができることを考える場面（第6時）で、先に授業者より SDG s を紹介した。そして、自分たちのこれからの行動が SDG s にどう繋がっていくかを示すことで、行動への起爆剤となるようにした。

13. 改善点

- ・海外出身の方のお話を聴く際、事前にアンケート形式で質問させていただいた。「日本にはじめて来たときに困ったこと」「港島学園の子供たちに理解してほしいこと」など4つの質問だったが、児童が知りたいことや苦労してでも住みたいと考えた日本の良さなど、さらに質問項目を多くしてもよかったのではないと思う。
- ・グループで計画をもとに実践していく場面（第7～10時）では、できれば各グループに1名ずつアドバイザー（海外出身の方や支援されている方）に入っていただくと、児童がさらに海外出身の方の困り感に寄り添って進めることができたのではないと思う。外国籍保護者は難しい場合もあるので、例えば JICA 関西の長期研修員の方々をお願いして来校してもらうのも一つの方法だと思った。

14. 成果が出た点	・1 学期より国際理解や多文化共生に視点をもった学習を進めてきたこともあり、この単元でも海外出身の方の困り感を考え、アイデアを多く出せるようになった。また、ちょうどこの学習をしている期間に、海外から 6 年生児童 1 名が編入してきた。日本語はほとんど伝わらないが身振り手振りで伝えようとしたり、気軽に挨拶しようとしたりする児童が多く見られた。同時に、この学習で自分たちに何ができるかを考える際、その児童の少しでも助けになるようにと、より具体的に考えることができた。 ・児童が「やさしい日本語」や SDG s について知識を広げることができた。また、在留外国人支援団体の方のお話を聴いた後にも、その団体が主催するイベントに参加する児童もあり、関心をもつ児童が増えた。
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	※学習が延期になったため、1 月にも継続予定です。そのため、学習後の児童の様子が記入できていません。学習中での感想例を書かせていただきます。 (児童の感想より) ・私たちが住んでいる地域に、こんなに外国の方がいて外国の方を応援する場所があったんだと思いました。この場所を知らない外国の方（悩んでいる方）に教えてあげたいと思いました。 ・外国から来た人がどれほど苦労しているのかが分かりました。ふだん自分が何気なくしゃべっていても、外国にルーツのある人には分からないこともあることが分かりました。「やさしい日本語」について、もっと調べたいです。そして、もっと外国にルーツのある人と話してみたいと思いました。 ・私たちの住んでいる神戸でも、ハラルマークが付いた食品を見たことがあります。イスラムの人たちが身近にいることを理解して、受け入れることが大切だなと思います。
16. 授業者による自由記述	・今回学習を共に進めてきた 6 年生は、以前自分が担任した児童たちである。もちろん 6 年間の成長もあるが、この学習を通して外国籍児童や地域に住む海外出身の方でできることを考え実践しようとする姿が多く見ることで、正直嬉しかった。 ・自分自身これまで SDG s に関する知識はほとんどなかったが、この学習を通して自分も関心が高まった。この学習だけでなく、総合的な学習の時間を中心に他の学習でも SDG s と関連して進められたら、児童もより自分たちの学習に意義をもって進めることができるのではないと思う。そのためには、まず他の先生方にもっと知ってもらわなければならない。

参考資料：

- ・「JICA 地球ひろば」HP の「先生・生徒のお役立ちサイト」、および「ニュース」での授業実践紹介
- ・書籍「未来を変える目標 SDG s アイデアブック」「同級生は外国人?!」(全 3 巻)
- ・神戸市中央区役所「外国人相談窓口」資料
- ・KIC (神戸国際協力センター) 資料
- ・ピクトグラム資料
- ・埼玉県サイト「外国人緊急カード」
- ・サイト「やさしい日本語」

港島ワールドプロジェクト ～地域に住む世界の人と～



6年 組 名前（ ）

今日の学習で、**気づいたことや気になったこと**を書こう。

今日の学習： 10月 日（ ）

①「日本や地域に住む海外出身の方の、困りごとを考える」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナースhipで目標を達成しよう

